

公立陶生病院に通院されている患者さんへ

## 「特発性肺線維症患者の胸部 CT で測定された脊柱起立筋の面積の継時的変化と予後に関する後方視的検討」についての情報開示

特発性肺線維症 (IPF) は、肺の線維化が進行性に悪化し、生存期間中央値が 2~3 年と予後不良の疾患です。予後を予測するには、年齢、性別、肺機能、呼吸困難の程度などが報告されています。近年、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) では胸部 CT 画像の脊柱起立筋の面積が予後と相関することが報告されており、IPF でも同様に脊柱起立筋の面積が予後予測因子となっているのではないかと考えられます。

そこで、胸部 CT 画像から脊柱起立筋面積を測定し、その継時的変化から予後を予測することができるかどうかを調べる研究を計画しました。

この研究では、2008 年 6 月から 2013 年 6 月までに公立陶生病院で IPF と診断された患者さんを対象とし、該当する患者さんの胸部 CT 画像の脊柱起立筋面積の継時的変化が生命予後と関連するかどうかを調査することが目的です。

研究期間は倫理委員会承認後より 2022 年 1 月 31 日までを予定しています。

後ろ向き観察研究で、初診時および半年後の臨床情報、画像情報をカルテより抽出し解説に使用します。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報厳重に保護しています。使用するデータとしては、年齢、性別、カルテに記載されている問診・診察情報、胸部 X 線や胸部 CT スキャン、血液検査、呼吸機能検査、運動耐容能検査、治療内容などを想定しています。

研究機関名：公立陶生病院、名古屋市立大学

研究代表者：名古屋市立大学 大久保 仁嗣

研究責任者：公立陶生病院 近藤 康博

上記に該当する方で、この研究についてのご質問や、研究協力にご了承頂かない場合には、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師 松田俊明（電話 0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。